

2.1.5 国際交流（文学部・文学研究科 共通）

【評価項目7-0-1】 国際交流（国内外における教育研究交流）

- （必須要素）国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性（学部・研究科）
- （必須要素）国際レベルでの教育研究交流を緊密化させるための措置の適切性（学部・研究科）
- （選択要素）外国人教員の受け入れ体制の整備状況、運用の適切性（学部・研究科）
- （選択要素）教育研究及びその成果の外部発信の状況とその適切性（学部・研究科）
- （選択要素）国内外の大学院間の組織的な教育研究交流状況（研究科）
- （選択要素）国際的な教育研究交流、学術交流のために必要なコミュニケーション手段修得のための配慮の適切性（研究科）

<2003年度に設定した目標>

1. 研究者の海外派遣および海外からの受け入れの促進
2. 各種留学プログラムによる学生の派遣・受け入れの促進

（現状の説明）

海外大学・機関と文学部（文学研究科）との間で独自の交流協定は結ばれていないが、大学間の協定にもとづき、文学部では2003年度に短期4名、長期3名、2004年度に短期3名、長期4名の研究者を海外から受け入れており、また2004年度に短期1名の教員を海外に派遣している。学生交換（原則1年間）についても、2003年度16名、2004年度14名を海外から受け入れ、2003年度7名、2004年度6名を海外に派遣している。

夏季休暇などを利用して海外の大学や研究所、各種フィールドにおいて短期間の調査研究活動や国際会議での発表を行う教員も多く、届出のあったものだけでも2003年度のべ22名、2004年度のべ19名が現地での調査研究ないしは研究発表目的で海外出張を行っている。

（点検・評価の結果）

文学部および文学研究科に所属する教員の国際交流は、専門分野にもよるが、総じて活発に行われている。ただし、授業担当や学内の諸行事・委員会活動のために、長期の海外出張が困難なケースもあり、研究活動に制約がある。

学生に関しては、文学・語学系を中心に留学希望者が多く、学内の各種留学プログラムにとどまらず、さまざまな形で海外の大学・大学院へ留学する学生が多い。ただし、カリキュラムおよび履修登録のスケジュール上の問題により、留学によって卒業が半年ないしは1年遅れるケースがあり、学部のみならず大学全体での対応が求められている。

研究者の受け入れは活発になされているが、特定国および特定分野に偏る傾向があり、より多様な国・分野の研究者受け入れが必要である。また、受け入れ交換留学生のほとんどが学部学生であり、日本語力などの問題から、国際教育・協力センターでの授業を主に履修しているため、文学部の専門教育を学ぶ機会に欠けている。

（改善の具体的方策）

教員の国際交流促進のためには、教員各自の努力とともに、授業スケジュールや学内の

諸行事・委員会活動による研究活動の制約を最小限にするための制度改善が全学的に必要である。また、渡航関係費補助などを促進する必要があるが、これについて文学部・文学研究科独自に予算化することは困難である。なお、国際的に活躍できる研究者の養成という面から、大学院生が海外の学会大会や会議で発表する際に渡航費などの援助をする制度の創設が考えられる。